



令和8年5月12日
(公財)海上保安協会

第7回「海上保安の日」俳句コンテスト各賞発表

海上保安庁は昭和23年5月の創設以来、永年にわたり広大な海の平和と安全を守り続けています。海上保安庁の創設に際し、初代長官である大久保武雄氏により庁舎屋上に海上保安庁の旗「庁旗」が初めて掲揚されたのが5月12日でした。この5月12日が「海上保安の日」と定められており、この日を記念して、大久保武雄氏が俳人（俳号；橙青（とうせい））であったことにちなみ、毎年、「海上保安の日」俳句コンテストを開催しています。

応募部門を一般の部と高校生以下の部の二部門に分け、今回は応募期間を令和7年11月20日（木）～令和8年2月20日（金）までの3か月間として募集した結果、一般の部1,650句、高校生以下の部2,243句、総数3,893句の投句がありました。

これを9名の選者が選考し、各部門それぞれ、大賞（橙青賞、海上保安庁長官賞、海上保安協会会長賞）、特選、及び佳作の作品が決定されましたので、お知らせします。

< 入賞数 >

- 一般の部
 - 大賞 3句（橙青賞、海上保安庁長官賞、海上保安協会会長賞の各1句）
 - 特選 7句
 - 佳作 30句
- 高校生以下の部
 - 大賞 3句（橙青賞、海上保安庁長官賞、海上保安協会会長賞の各1句）
 - 特選 7句
 - 佳作 28句

< 選者 >

井上 泰至	(公社) 日本伝統俳句協会会長
小島 健	(公社) 俳人協会副会長
高野 ムツオ	(一社) 現代俳句協会会長
星野 高士	国際俳句協会会長
富士 真奈美	俳人、俳優
夏井 いつき	俳人
岸 ユキ	元海上保安友の会理事、俳優
稲畑 廣太郎	(公財) 海上保安協会評議員、(公社) 日本伝統俳句協会副会長
佐藤 雄二	元海上保安庁長官

※ 順不同

※ 俳号にてご応募された方は、俳号により掲載しています。

◇ 一般の部 ◇

《 大賞 》

◎ 橙青賞（初代海上保安庁長官 大久保武雄 俳号）

海図へと落とす汗あり海保の日 千葉 貞富 雄太

選評（高野 ムツオ）

誰の汗とも特定できないが、巡視船の乗組員の保安官の汗であろう。海保の日も真夏の海上で海図を見つめながら、日本の海の安全のため、懸命に任務に取り組んでいる姿が想像できる。「汗」に着目したことで日焼けした腕や真剣なまなざしも目の前に浮かんでくる。

選評（富士 真奈美、岸 ユキ、佐藤 雄二）

◎ 海上保安庁長官賞

灯台へ遠足島の一年生 大阪 今井 文雄

選評（岸 ユキ）

光景が目に浮かぶようです。きっと大人になっても心に残る遠足になる事でしょう。

選（富士 真奈美）

◎ 海上保安協会会長賞

大西日受けて飛び立つ海保ヘリ 東京 鈴木 英晴

選評（稲畑 廣太郎）

暑い夏の夕方、太陽が西に沈もうとしている中を海上保安庁のヘリコプターが飛び立って行く。何か緊急事態が発生したのかも知れないが、海上保安庁の仕事は年中休むことなく日本の海のために働いているのである。「西日」という夏の季題が、海保ヘリの雄々しい姿を映し出している。

選（星野 高士）

《 特 選 》 7句（各選者の特選句等：順不同）

① 特選

父と呼ぶ島母と呼ぶ島海保の日 埼玉 大紀直家

選評（夏井 いつき）

一度も大陸と地続きになつたことのない「海洋島」として、世界自然遺産登録された小笠原諸島でしょう。30あまりの島の中で、一般の方が住むのは父島と母島のみで、父島には海上保安署があります。渡島の手段は船だけであるこの島々と「海保の日」との取り合わせが、昼夜を問わない海上保安活動への敬意の表現となりました。

選（井上 泰至）

② 特選

地軸まで水で満つ星海保の日 埼玉 渡邊 照夫

選評（井上 泰至）

海保の「志」は天地人に及ぶ。大きな句柄。海から見た世界の強く美しい姿。

③ 特選

海保の日父と作りし貝風鈴 石川 沖野 晶子

選評（小島 健）

う～ん、いいですねえ、「父と作りし貝風鈴」！ その美しい回想を「海保の日」と重ねたのが成功の因です。過去と現在が一句の中で違和感なく融合しています。嗚呼、父よ。「海保」の「かい」と「貝」の「かい」と頭韻を踏み、調べを円滑にした技巧もさすが。彼此、温かい詩情に満ちた作品に乾杯！

④ 特選

凝らす目に地球の丸み海保の日 神奈川 美叶

選評（星野 高士）

海があれば空もあるし大地もある。そして地球という大きなものへの写生力が響いている作品となった。海保の日だからこそその俳句であった。地球と海と並べたところも大胆である。

⑤ 特選

百態の島よ日本よ海保の日

愛媛

櫛部

隆志

選評（富士 眞奈美）

本当に島だらけの島国、日本です。私も伊豆生まれ。海は大好き。百態の島、海、本当にさまざま。美しい島国、日本です。

⑥ 特選

国境は日本のかたち海保の日

大阪

棕本望生

選評（佐藤 雄二）

日本の形と言えば、陸の形状を示すのが一般的であるが、この句では国境が日本のかたちだと言う。言われてみれば、領土に領海を含めたものが、日本のかたちとして正しいとも言える。領海警備を行っている海保を下句に置いて国境と呼応させたのが良い。また、形ではなくあえて「かたち」と表現している点も意味深い。

⑦ 特選

平和とは海の底まで海保の日

神奈川

石田草城子

選評（井上 泰至、高野 ムツオ、星野 高士）

《 佳作 》 30句

初日の出光り輝く巡視船

兵庫

今北 眞奈美

海神へ深き一礼海保の日

東京

曾根 新五郎

瀬戸内の夕日の匂ひ海保の日

愛媛

中矢 尚

海保の日祈りのやうに遠汽笛

東京

羽住 博之

出航の水脈の白さや海保の日

京都

藤本 かおり

島国の海のつながる海保の日

東京

新濃 健

揺り籠のごとき青海海保の日

東京

前田 笑子

敬礼の影は敬礼海保の日	千葉	松尾 重史
雲の峰舳先を回す巡視船	千葉	須賀 毅
海保の日海辺で繋ぐ小さな手	茨城	庭田 里枝
命の灯点す灯台卯波立つ	佐賀	萩原 豊彦
命生む海の恵みよ海保の日	新潟	涌井 悦子
タラップを駆ける靴音海保の日	埼玉	関とし江
海保の日制服の折り一直線	愛知	竹市 卓矢
子の描く蒼き地球の海保の日	石川	渡邊 美愛
海といふ青き鉄火場海保の日	神奈川	長谷部 誠一
砂浜で子等の相撲や海保の日	福岡	清松 藍
地球儀を指で擦って海保の日	埼玉	田中 康雄
海の日や家族全員海が好き	北海道	藤林 正則
いつもより海のとときめき海保の日	新潟	吉澤 良輔
神業の操船技術海保の日	兵庫	えとう樹里
海保の日登舷礼の凜として	神奈川	下村 修
灯台の愚直なりズム海保の日	秋田	藤田 留実子
投錨や飛沫轟き海保の日	愛知	後山 賢太
巡視艇出航準備冬鷗	愛媛	大賀 康男
陽炎を裂いて視界に巡視船	埼玉	山口 泰
海保の日敬礼の影海に伸ぶ	北海道	山田 将椰
晴れわたる波の押し寄す海保の日	神奈川	野原
薫風や海保の汽笛真似る子よ	埼玉	中谷 愛
海遠き村にて祈る海保の日	大阪	西川 千波

◇ 高校生以下の部 ◇

《 大 賞 》

◎ 橙青賞（初代海上保安庁長官 大久保武雄 俳号）

海保の日海は神話のやうに碧 愛媛 中津 陽希

選評（井上 泰至）

海の懐には、さまざまな神も物語を織りなす。海の「碧」から幾重にも想像がふくらむが、正義もそこにある。

選（小島 健、高野 ムツオ、星野 高士、稲畑 廣太郎）

◎ 海上保安庁長官賞

海保の日静かな海に使命あり 鹿児島 沖 陽之祐

選評 (星野 高士)

この季題は新らしいものであるが、いろんな人生重ねて行く内に認められる。海はこの時代更なる使命がある。発想の豊かさと同時に責任感まで追求した思いがよく伝わってきた。

選 (井上 泰至、稲畑 廣太郎)

◎ 海上保安協会会長賞

海保の日実習生に風がふく 愛媛 若狭 早

選評 (高野 ムツオ)

海上保安大学の実習生でしょうか。国内航海実習に続き、専攻科では約三ヶ月半におよぶ世界一周の実習を行うと知りました。その実習の一場面でしょう。朝、甲板にでも整列している場面が想像できます。実習生の頬を折からの夏風が励ますようになでていったのです。

選 (小島 健、岸 ユキ)

《 特 選 》 7句 (各選者の特選句等：順不同)

① 特選

双眼鏡未来へピント海保の日 東京 松本 真

選評 (岸 ユキ)

未来へピントが印象的です。この先世界、いや地球への不安などある昨今、未来永劫平和にピントがあわせられる事を願います。

選 (星野 高士)

② 特選

夏の潮海上保安の汽笛澄む 兵庫 井上 大地

選評 (富士 真奈美)

立派な素晴らしい俳句。一読一発で選出させて戴きました。夏の潮に澄んだ汽笛の音が尾を引いて……。その汽笛、私も聞きたいな。広い海です。

選 (高野 ムツオ)

③ 特選

荒波の盾となりゆく海保の日 石川 青木 もか

選評 (夏井 いつき)

「海上保安の日」は、海洋の秩序維持、海難の救助、海上防災、海洋の環境保全、海上交通の安全確保などの海上保安活動への理解と信頼を深める日です。この「荒波」は、荒れ狂う波の意味だけではなく、密漁、海賊、テロの脅威、海の汚染や災害などの比喻でもあるでしょう。まさに、あらゆる海の脅威の盾となる活動です。

選 (佐藤 雄二)

④ 特選

海が好き船も大好き海保の日 北海道 澤渡 昂

選評 (小島 健)

大らかで明るく親しみやすい作品に大きな拍手！ 技法にも優れ、「海が好き」「船も大好き」のリフレイン（繰り返し）技法と、対句仕立て。この音楽性と言葉の強調がいいね。加えて「が」「も」の助詞、「大」の変化の工夫も見逃せません。この健康な詩情は五重丸に花印、やったね！

⑤ 特選

海守る大きな船だ海保の日 熊本 稲田 唯

選評 (稲畑 廣太郎)

海上保安庁の巡視船は日本の海を守るために白く大きなものが多いですね。そんな船をすばらしい俳句にしました。海保の日に港に行って、碇泊しているものや海を走っているものを見て、その船をたのもしく思ったのでしょうか。これからも日本の海を守ってほしいという願いが感じられる俳句です。

⑥ 特選

海保の日静かに回る羅針盤 福岡 島田 壮大

選評 (佐藤 雄二)

羅針盤が速く回るということは、急角度の舵で急いで船を回頭していることを意味しており、何やら不穏な事態を思い起こさせる。一方で、羅針盤が静かに回るということは、船がゆっくりと変針しており、急ぐ必要のない平穏な海を思い起こさせる。平和で安全な海を守る海保の日を羅針盤の動きで表した秀句である。

⑦ 特選

夏潮や巡視警備の船光る 石川 駒寄 乃愛

選 (井上 泰至、富士 真奈美、稲畑 廣太郎)

《 佳作 》 28 句

海保の日親戚みんな海男	熊本	小崎 翔琉
エンジンが孤独に鳴いて海保の日	埼玉	大室 史華
船首割く金波銀波や海保の日	埼玉	高橋 未来
白き船沖に凜々しく海保の日	鹿児島	織田 暁斗
海の音耳に残るは海保の日	熊本	高岡 真紗斗
風吹いて海上保安の日は来たり	千葉	来田千斗
海保の日太平洋の風を聴く	愛媛	窪田 大晴
海鳥も歌う海上保安の日	鹿児島	渡邊 絢斗
海保の日海図ひらけば潮ゆれる	東京	大口 大和
海保の日光るは海とその眼	東京	加藤 正路
海保の日貝が奏でた波の歌	鹿児島	野田 咲実
蒼い海つないでいこう海保の日	岐阜	村安 咲楽
日本のこっきょうは海海保の日	埼玉	西多あきと
海原へ面舵いっぱい海保の日	長野	田中 莉駆
あんぜんとへいわを願う海保の日	東京	山口 杏奈
いつもより海がきらめく海保の日	鹿児島	森 幹太
海保の日みんな大好き広い海	東京	渡邊 育夢

白波の立つ背は青き海保の日	石川	加納 那南
争いなき瑠璃の海なり海保の日	沖縄	仲地 萌瑛
海空を繋ぐ灯台海保の日	大阪	中山 修輔
海保の日終楽章のごとき晴	愛媛	青野 そら
白波を越えて笛鳴る海保の日	東京	市川 裕雅
灯台に答える汽笛海保の日	兵庫	稲葉 陽咲
潜水土波にも負けず海保の日	熊本	下田 悠太
巡視船白く輝き海保の日	鹿児島	有馬 アゲハ
今日もまたかもめとびかう海保の日	京都	田中 綾乃
海保の日守り抜く手に潮の香あり	東京	相澤 遥
そでまくり気づけば今日は海保の日	鹿児島	山西 彬楽

【お問合せ先】

公益財団法人海上保安協会「海上保安の日」俳句コンテスト係

〒104-0033 東京都中央区新川 1-26-9 新川イワデビル 7F
TEL : 03-3297-7589 FAX : 03-3297-7590